

経営比較分析表（令和3年度決算）

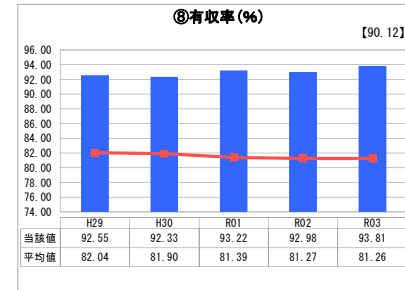
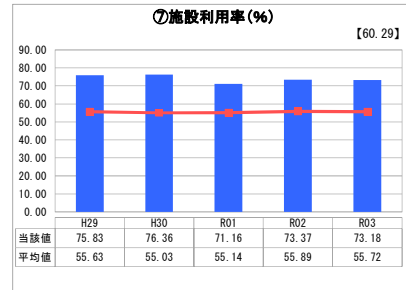
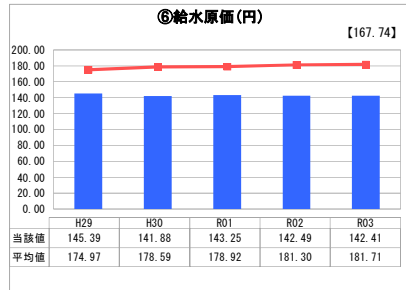
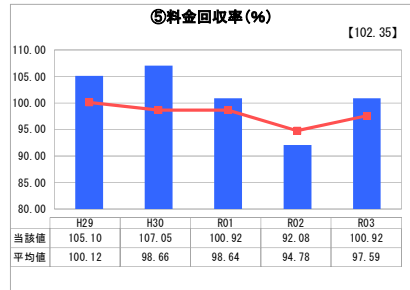
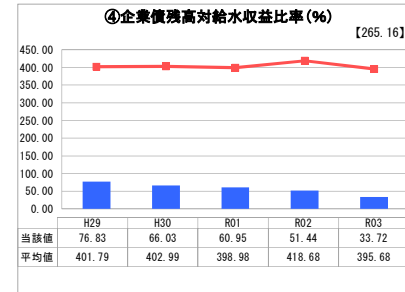
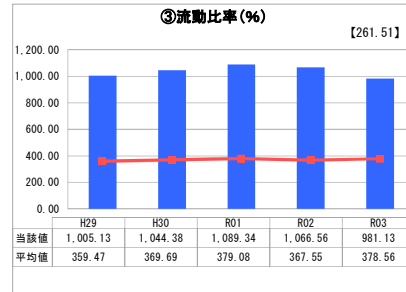
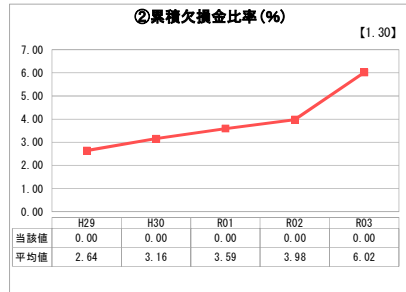
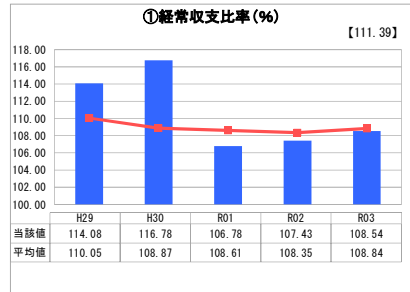
埼玉県 滑川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	94.13	99.85	2,310	

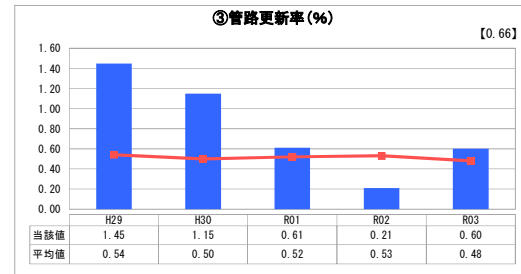
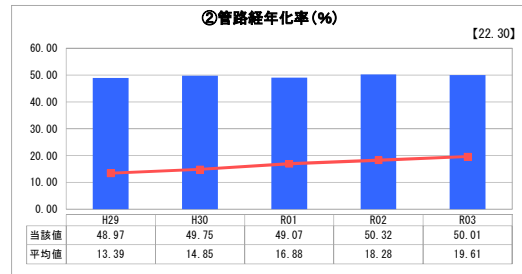
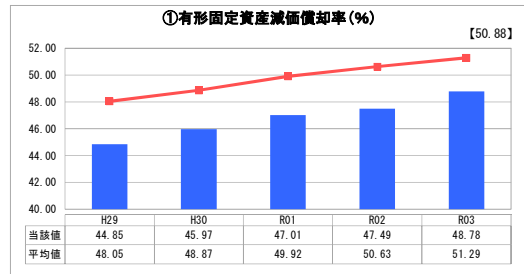
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,670	29.68	662.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,628	29.35	668.76

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
前年度より1.11ポイント増加し、3年連続の伸びとなった。全国平均値及び類似団体平均値は下回っているものの、平均に近づきつつある。また、黒字経営を示す100%以上の数値を出している為、今後も収支の推移に注意し健全な経営を目指す。

②累積欠損金比率
本年度も0%を維持している。営業収益に対し、複数年にわたる損失はないことを示している。

③流動比率
前年度より22.78ポイント減少しているが、全国平均値を上回っており、1年以内に支払うべき債務に対して支払い可能な現金等がある状況を示している。

④企業債残高対給水収益比率
全国平均値及び類似団体平均値を下回っており、企業債に係る事業を行っている。返済は順調に継続しているため、過去数年にわたり減少の傾向にある。

⑤料金回収率
類似団体平均値は上回っているものの、全国平均値を下回っている。100%以上の数値である為、給水に係る費用は給水収益で賄えているが、より一層の回収率の向上を目指す。

⑥給水原価
給水1m³あたりの経費。例年と同程度であり、全国平均値及び類似団体平均値を下回っている。安い原価で給水ができていないことを示している。

⑦施設利用率
本年度も全国平均値を上回り、施設利用状況や規模が良好であることを示している。

⑧有収率
前年度より0.83ポイント上昇し、類似団体平均値を上回り、高い数値を維持している。施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。前年度より1.29ポイント増加しているが、全国平均値及び類似団体平均値を下回っている。依然として右肩上がりの増加傾向にある。

②管路経年率
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標。例年、類似団体平均値を大きく上回っており、老朽化への対応が必要である。

③管路更新率
該年度に更新した管路延長の割合を示す指標。前年度に比べ0.39ポイント減少しており、類似団体平均値を上回っている。令和4年度以降は「重要給水施設配水管路耐老化及び老朽管更新事業計画」に基づいた更新工事を予定しているため、改善の見込みがある。

全体総括

令和3年度の経営の健全性・効率性については適正であると判断されるものの、料金回収率の向上や施設等の老朽化は依然として重要な課題点であり、今後の更新工事や未収金の解消等に取り組む必要がある。

平成30年度に策定した経営戦略及びアセットマネジメント（資産管理）、令和元年度に策定した水道事業ビジョンに基づき、基本理念である「未来をつなぐ 暮らしを守る 安心・安全な滑川の水道」を目標に、住民の皆様が安心して水道を利用できるよう、より一層の経営基盤の強化を図っていく。

経営比較分析表（令和3年度決算）

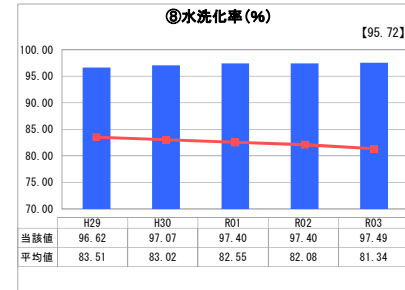
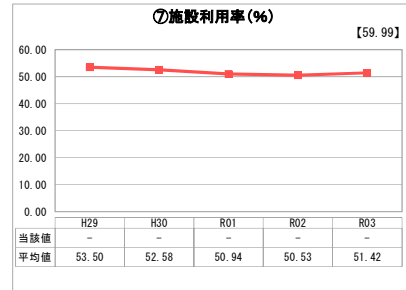
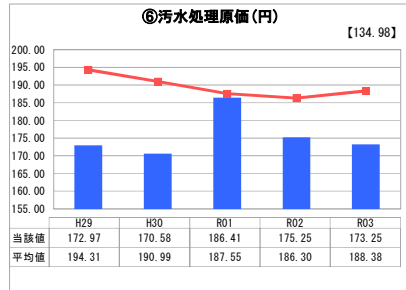
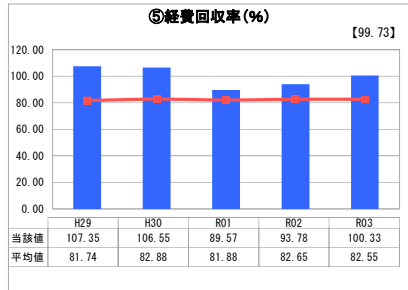
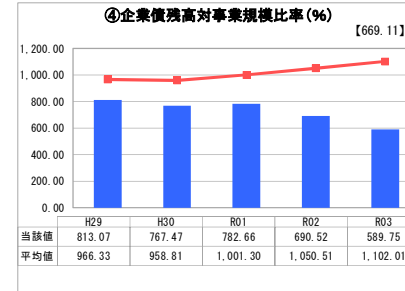
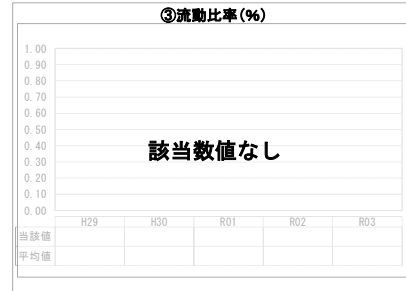
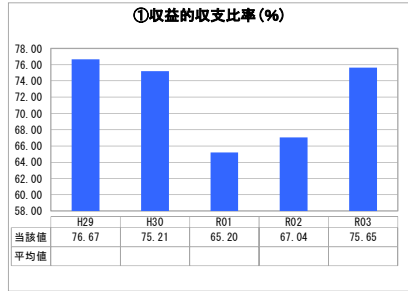
埼玉県 滑川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	56.04	91.00	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,670	29.68	662.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
11,017	2.73	4,035.53

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

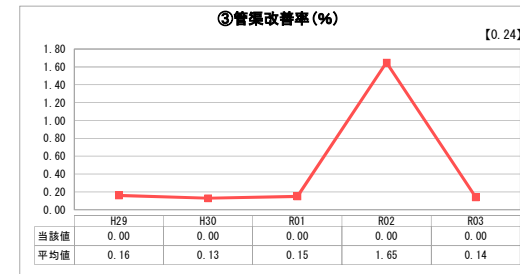
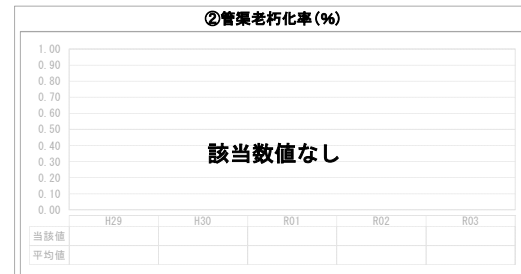
1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、前年に改善したものの、維持管理支出が多い傾向から、100%未満が続いており、経営改善に向けた取組が必要である。企業債残高対事業規模比率が低下したが、償還金、維持管理費の増加により投資できない状況である。経費回収率は、類似団体を上回っているが使用料だけでは厳しく、一般会計繰入金により保たれている状況である。汚水処理原価については、類似団体平均値を下回っており効果的な汚水処理が実施されているか検討が必要である。

2. 老朽化の状況について

管渠の老朽化はあまり見られなかったが、マンホールポンプの老朽化・故障により修繕を要している。その為、効率的に維持管理を実施し、長寿命化を図ることが必要である。

2. 老朽化の状況



全体総括

過去の下水道整備の起債償還金は減少しているものの、維持管理費等の増加により現状の使用料だけでは経営が厳しく、一般会計繰入金が増額が必要となっている。そのため、今後は経費の抑制、使用料の改定の検討、納付率の向上を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（令和3年度決算）

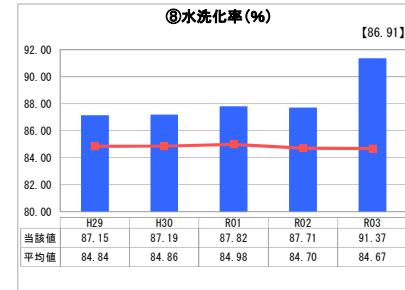
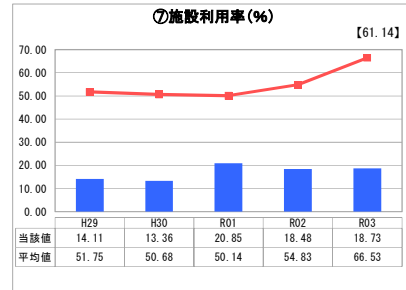
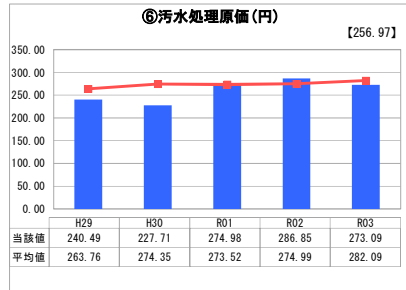
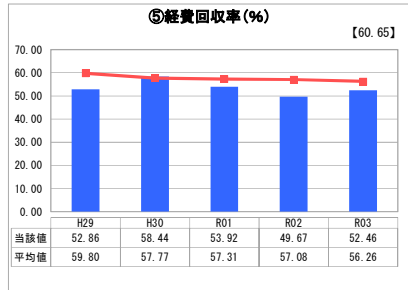
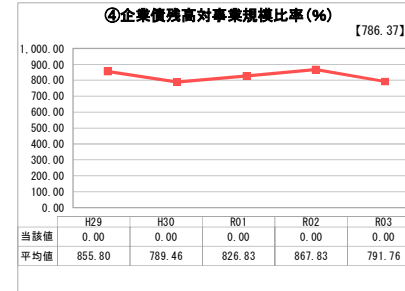
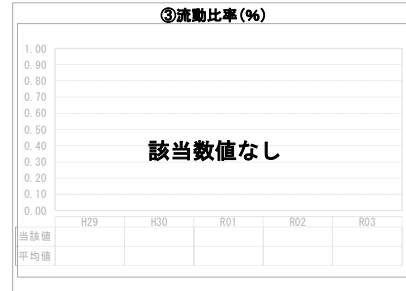
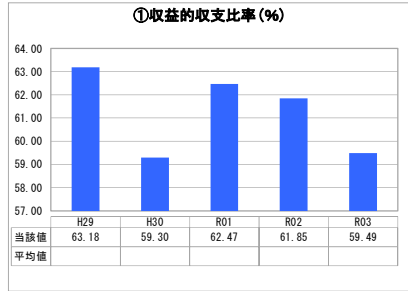
埼玉県 滑川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)
-	該当数値なし	7.07	84.78	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,670	29.68	662.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,390	0.64	2,171.88

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

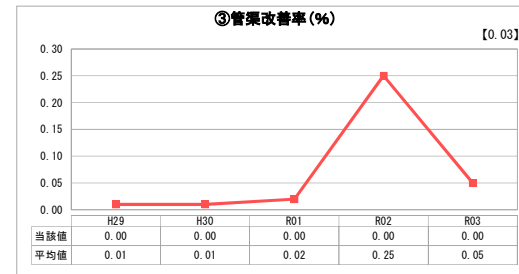
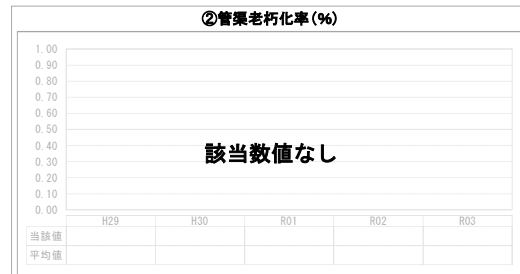
1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、維持管理支出が多い傾向から、100%未満が続いており、経営改善に向けた取組が必要である。
 経費回収率は前年よりもわずかに上昇したものの、類似団体平均値よりも下回っている。使用料収入が増えない中で、機器老朽化による修繕費用が増えた事による。
 修繕費用などの維持管理支出の割合が高いことから、汚水処理原価が横ばい状況である。
 使用料金改定の検討が求められる。

2. 老朽化の状況について

処理施設も管渠も建設から20年を超えたものがある。限られた財源の中で、修繕・更新を検討、計画する事が求められる。

2. 老朽化の状況



全体総括

処理施設の老朽化により、維持管理費が増加する状況下で、今後は機能強化等の工事費の増加も見込まれる。また、処理区域内の人口減少を視野に入れ、使用料金改定を検討する事が求められる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（令和3年度決算）

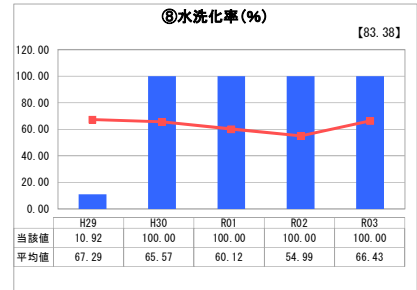
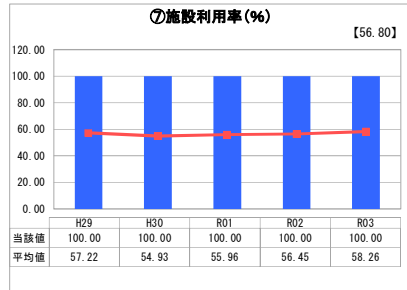
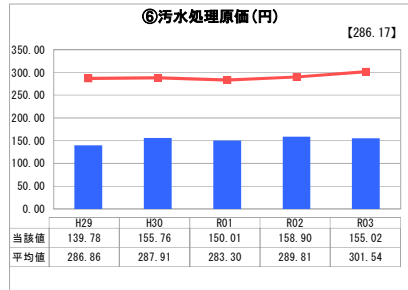
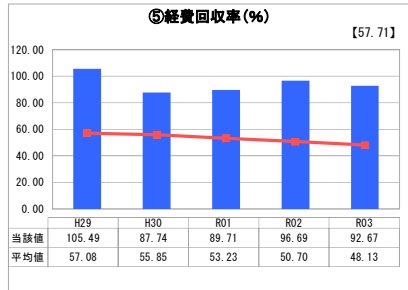
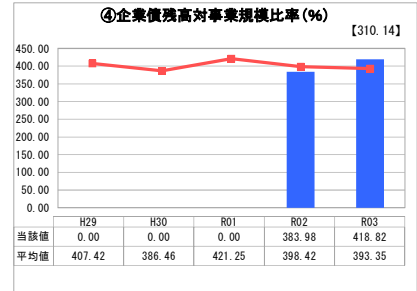
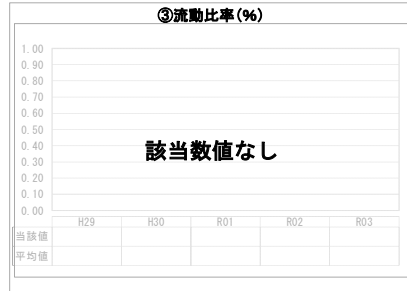
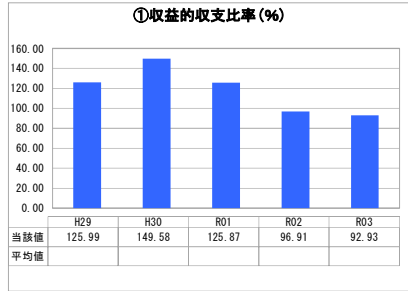
埼玉県 滑川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.72	100.00	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,670	29.68	662.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
534	25.83	20.67

グラフ凡例	
■	当該団体の値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

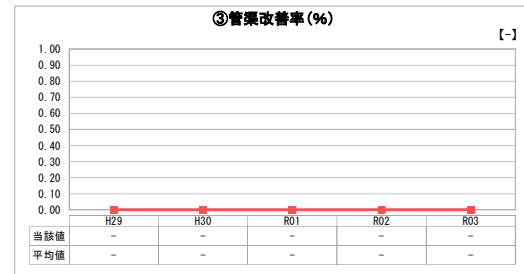
1. 経営の健全性・効率性について

修繕などの維持管理支出額の上昇により、収益的収支比率が昨年より低下し、経営改善に向けた取組が求められる。
 経費回収率は類似団体を上回っており、使用料で回収すべき経費を賄えている状況である。
 汚水処理原価は全国平均を下回っており、低コストで汚水処理が出来ている状況であるが、今後、維持管理費の増加等によるコスト上昇については注視が必要である。
 今後も浄化槽の普及拡大により、高水準な水洗化率を維持することが求められる。

2. 老朽化の状況について

事業開始から数年が経ち、徐々に維持管理費が増加傾向にある。

2. 老朽化の状況



全体総括

単独浄化槽から合併浄化槽への転換及び、合併浄化槽から高度処理合併浄化槽へ順調に整備が進んでおり、水質の向上が進展している。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。